

## まえがき

国際基督教大学における日本語教育は今年度で45年になる。開講当時最新の言語学、外国語教育学の理論をもとに作られたカリキュラム、教授法、教材、評価法などは、その後も時代とともに幾多の改良が行われてきた。それらは先生方の研究の成果や経験、工夫に負うところが多いが、当然のことながら理論的な裏付けも必要である。そのための研究を行うことを業務の一つの柱として、1991年にICU日本語教育研究センターが設立されたわけである。

本センターは、日本語教育界全体に貢献することをめざし、具体的に本学教養学部的全学プログラムである日本語教育プログラム（JLP）の教材研究、教科書作成などに所員の多岐にわたる研究活動を反映させる一方、所員と内外の日本語教育研究者、専門家による研究例会、公開講義などを行ってきた。

教育活動としては、毎年JLPを補完する「夏期日本語教育（Summer Courses in Japanese）」を行っており、1998年は7月2日から8月15日までの期間、実施した。こちらについては、例年同様『ICU夏期日本語教育論集』を編集発行している。

当センターの1998年度の人の動きを振り返ると、4月に佐藤豊助教授を迎え、9月に根津真知子教授が特別研究期間から戻った一方、11月末には山下早代子専任講師が退職し、東京医科歯科大学に移られた。また、センター長については、1994年度から97年度まで2期4年間にわたり精力的に率いてこられた飛田良文教授にかわり、稲垣滋子教授と中村妙子教授が特別研究期間のため不在という状況のもと、広瀬が語学科長と兼務という形で引き継いだ。

なお、本号の編集は、飛田良文、平田 泉、広瀬正宜が担当した。

1999年2月14日  
日本語教育研究センター長  
広 瀬 正 宜